

令和7年度 学校評価報告書

学校名	三田市立高平小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

「人とつながりよりよい自己をめざす児童の育成」
 ～「やさしさ」と「ふるさと高平」を大切に～

2 今年度の学校重点目標

【学びいっぱい】・目標に向かって、粘り強く主体的に取り組む子 ・意欲、興味、関心をもって進んで学習する子
 【友だちいっぱい】・自分から進んで友だちと仲よくする子 ・友だちと助け合い、支え合う子
 ・いじめをしない、させない、許さない子
 【やさしさいっぱい】・誰にでも優しく、思いやりを持って行動する子 ・気持ちのよいあいさつができる子
 ・感謝の気持ちを表現できる子

3 総合的な自己評価

昨年度実施した学校アンケート結果をもとに、今年度は特に基礎・基本の定着や児童の読書習慣や主体的に取り組む姿勢に関する改善の方策に取り組んだ。その成果として、保護者アンケートにおいて「子どもは、学習に対して根気強く取り組み、最後まであきらめずにやり通そうとしている」「子どもは、自ら進んで読書しようとしている」「子どもは、家庭や地域で丁寧な言葉遣いをしている」の項目では、肯定的な回答の割合が向上した。これは 学校生活の中の挨拶や地域とつながる活動において、児童の立案・計画したものを実行に移し、自己有用感を感じさせることができたからではないかと考えている。しかし、総じて学校の教育課程及び学校生活においては、全体の評価が下がっているため、今後も学校、保護者、地域が一体となって学校教育目標の実現を目指して取り組んでいきたい。

4 総合的な学校関係者評価

学校アンケートで向上した項目でもある児童の読書習慣や主体的に学ぶ姿勢、学校への相談体制などについては、今後も学校として継続した取組を願うとともに、今後も地域・家庭が一体となり取り組んでいく必要がある。また、児童数減少に伴う課題についても「地域に開かれた学校」の精神に基づき、児童の安心・安全を第一に考えながら、学校と共に子どもたちを育てるという意識を持ち、協働していきたい。来年度も今年度同様に、子どもたちが安心して過ごし、自分の力を伸ばすことができる学校の応援団として、地域コーディネーターと学校支援ボランティアとが協働し、子どもたちが安心して過ごし、自分の力を伸ばすことができる学校づくりを支えていきたい。

5 評価結果

自己評価			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程 学習指導	兵庫型教科担任制や教科担任制の実施により個に応じたきめ細かな指導を充実させ、基礎的基本的な学力の向上を図る。	高学年において、教科担任制での学習を行った。複数の教師の指導により、一人一人の習熟状況をとらえることができた。昼時間の学習タイムによる基礎学力向上の取組については、ICT 機器の活用を行うなど、一定の成果が得られた。しかし、教師主体の授業から「対話」を位置付けた児童主体の授業への転換が今後求められる。	兵庫型教科担任制や教科担任制を活かし、授業力の向上と、より多くの目で子どもを見守る職員体制を構築する。また、裕次官の学習タイムやがんばりタイムを継続して実施し、個に応じた指導体制と内容を整える。 自分の思いや考えを伝える場面の設定し、対話できる学習環境を作る。また自ら問いを持ってその問いを解決するための情報収集及び選択する力をさらに高めていくとともに、タブレットの有効活用を進め、児童の学習意欲の向上と、主体的な活動をめざす。	教師の目が一人ひとりにゆきとどき、個々の理解に応じた指導ができていく。今後も一人ひとりを大切にした授業を期待する。 ICT 機器の活用も含め、学び合う環境をつくり、多様な考えを認め合い、よりよい自己をめざす児童の育成を推進していただきたい。
	「対話」を通じた協働的な学びや ICT を活用した個別最適な学びを推進する。			
	「やさしさ発見の日」の取り組みの価値を児童と教員が共有し、共生の価値観を引き継いでいこうとする心情を育成する。	継続した取組により、児童が進んで学校生活の中からお互いの優しさを自然に見つけ、感謝の思いを伝えられるようになってきている。	「やさしさの木」や「給食の誕生日紹介」の取り組みも含めた活動意義を再確認し、自尊感情を高め、お互いを知る機会を今後も継続する。また、縦割り活動(掃除・運動会・児童集会等)を通じた異学年交流の充実を図り、教職員は子どもの長所を見つけ、その結果を子どもの前でほめる指導を心がける。	高平小学校が築いてきた人権の学びを大切に、これからも認め合い支え合う仲間づくりと自尊感情が育まれる取り組みを進めていただきたい。
生徒指導	いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向け、組織的に取り組む。	生徒指導担当を中心に、情報共有等、初動から終結までの流れを迅速に行うとともに、養護教諭やSC,SSW との連携し、心理的不安への支援も組織として対応した。その結果、保護者にとって安心して相談できる学校となっている。	毎月の生活アンケートから児童の困り感を早期発見し、丁寧な児童への聞き取り等、早期対応を心がける。また、今後も学年や学団、加配教員、管理職がチームとして対応にあたり、いじめの認識のことや未然防止等の教職員研修も実施する。	いじめの防止・早期発見・早期対応に向けて、関係機関及び地域・保護者とも連携をとって進めていただきたい。
	道徳教育・人権教育を充実させ、友だちや地域の人とのかかわりの中で「やさしさ」や「思いやり」に満ちた人間関係の育成を図る。	感謝のつどいの運営を児童主体で立案・計画・実行させ、日頃からお世話になっている人への感謝を伝える機会を作った。その結果、人とかかわりの中で「やさしさ」や「思いやり」に満ちた人間関係の育成ができてきている。しかし、その反面 SNS 等での児童どうしのかかわりにおける言葉遣いや伝え方等については課題が見られる。	人権学習は、すべての教育課程の基盤であるという意識をもち、今後も誰にでも優しく、思いやりを持って行動する児童の育成を進めていく。また、道徳の授業改善に努め、教材の持つ道徳的価値に迫るための指導方法について研鑽を積んでいく。また、ICT 機器等の安全な使い方について、今後も研修会を行っていく。	感謝の気持ちを表現できる児童になるよう、私たちも学校・地域・保護者の心のつながりを大切にこの取り組みの価値を具現化していきたい。
研究・研修	豊かな「対話」が溢れる学校創りを進めることで、相手を「認識する・理解する・共感する・納得する」経験を積み上げ、「対話」を通して思考力、判断力、表現力を育成していく。	学校長のリーダーシップのもと、全校集会での豊かな「対話」活動が年間を通して行われた。楽しさの中に相手や自分の良さに気づくとともに、自然自分の考えを表現することができるようになってきている。	児童がめあてを持ち、「対話」を通して主体的に課題解決を図ったり、学んだことを活用したりする学習の充実を一層推進する。	基礎学力の向上とともに、友だちとの「対話」を通して、子どもたちが粘り強く取り組み、意欲を持って学習に取り組める授業づくりをこれからもお願いしたい。
	児童自ら学習を組み立てる力を育む授業作りの研究を進めることで、児童の学習意欲を高め、読書習慣や基礎学力の定着を図る。	算数科を中心とした授業研究を推進し、「なぜそうなるのか」「どう考えたのか」を大切に授業をめざした。しかし、今年度の児童アンケート「学校の勉強はだいたいわかる」の項目では、肯定的評価の割合が低く、今後「対話」を位置付けた授業が今後の課題となる。	算数科の研究を継続し、基礎基本の定着及び思考力や判断力、表現力、さらに主体的に取り組む力を伸ばす授業改善に努める。また、図書委員会、司書の先生を中心とした、学習タイムでの読書時間、図書ボランティアによる全学年の読み聞かせ活動を継続し、読書習慣の定着をめざす。	
家庭・地域との 連携	学校、家庭、地域、PTAとの連携を強化し、コミュニティースクールと地域学校協働活動の趣旨についての理解を深め、「ふるさと高平」とともに歩む学校づくりに努める。	地域コーディネーターと教員との話し合いにより、教育活動の充実を図ることができた。「感謝のつどい」を行い、お世話になっている方々へ感謝を伝えることができ、学校を支えていただいていることを再確認することができた。	地域人材を活用した教育活動を今後も推進し、学校運営協議会をはじめ、学級集会や懇談会等様々な機会を通じて児童の成長や学校の取組について、保護者・地域に発信していく。また、ボランティア交流会の実施を継続して行い、地域コーディネーターとの意見交流を行っていく。	今年度も、学校、家庭、地域、PTAが連携した教育活動を推進していただいた。校区探検を行った児童が ICT 機器を用いて作成した高平マップも素晴らしかった。児童の学びを地域にも発信し、これからも「ふるさと高平」とともに歩む学校づくりに努めてほしい。
	普段の学校教育活動の公開やホームページの更新など、積極的に情報発信を行い、信頼される学校づくりを推進する。	「学校だより」「元気いっぱい高平っ子」等ホームページを通して、学校の取組や児童の様子を発信してきた。今後も、学校と家庭・地域が連携できるような、詳しく丁寧な情報発信を心掛ける。	学校・学級通信、ホームページを通して情報発信を積極的に行い、信頼される学校づくりに役立てたい。また、オープンスクール等の機会を活用し地域の方々子どもたちの学校での様子を実際に見てもらい、学校への理解を深めていく。	
特別支援教育	一人一人の教育的ニーズを把握し、きめ細かく適切な教育的支援を行うとともに、だれもが学びやすい教育活動を推進する。	各学級に支援が必要な児童を把握し、個々の児童に応じた指導の計画を作成し、具体的な支援の方法を共有できた。また、児童理解交流会を開催し、教職員間で支援が必要な児童の状況を共通理解し、同じ方向での指導をおこなうことができた。	「サポートファイル」の有効活用を進め、職員間で児童の状況を共有し、支援が必要な児童に適切な支援が行えるように、全職員継続して、児童理解研修会や特別支援に関わる研修を計画的に行っていく。また、専門機関との連携を一層進め、学校外の機関と協働し児童の支援にあたる。	特別支援学級や交流を通して、お互いを認め合い、支え合い、学び合う環境が整っている。学校支援ボランティアとの授業連携も評価でき、今後も継続していただきたい。

6 学校自己評価の実施状況について

時 期	内 容
7 月	中間評価アンケート実施及び集約
12 月	年度末評価アンケート実施及び集約
1 月	アンケート結果の分析・共有
2 月・3 月	次年度の方向性の検討
3 月末	アンケート結果公表

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

7 学校関係者評価委員会の活動について

時 期	内 容
6 月 17 日	学校教育目標・重点課題・今年度の計画及び意見交換等
10 月 25 日	風の音「音楽会」参観
11 月 25 日	学校の取組意見交換等
1 月 16 日	防災学習の参観及び意見交換等
2 月 27 日	今年度の取り組みについての成果と課題についてまとめ等

8 学校評価の公表について

時 期	手 段	内 容	添付
5 月	学校便り(ホームページにも掲載)	日頃の児童たちの様子や学力向上指導改善プラン・学校評価の概括や保護者の声などを掲載。	
3 月	学校ホームページに掲載	学校評価の結果に考察を加え、ホームページに掲載。	

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います